

子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）

平成26年度 活動報告書



福島県立医科大学
エコチル調査 福島ユニットセンター

目 次

あいさつ ～世界的国家プロジェクトの支え～

福島ユニットセンター長 橋本 浩一	1
1. エコチル調査の概要	3
(1)背景	3
(2)環境省等による企画・実施	3
(3)調査の内容	3
2. 平成22～25年度の主な活動実績	5
3. 平成26年度活動実績	8
(1)リクルート等の実績	8
(2)フォローアップ状況	8
(3)詳細調査について	10
(4)地域運営協議会開催	12
(5)市町村訪問	13
(6)医療機関訪問	13
(7)広報活動	13
(8)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況	18
(9)その他研修等	19
4. 実施体制	20
(1)協力体制	20
(2)ユニットセンター実施体制	21
◎ 資料	
1. 全国集計データ分析結果	22
2. 第4回エコチルシンポジウムポスター	27
3. ニュースレター：2014年夏号	28
4. ニュースレター：2015年新春号	29
5. エコチルふれあい会の開催状況	30
6. エコチル調査協力医療機関(平成27年3月31日現在)	35
7. 平成26年度 福島ユニットセンターの組織図(平成27年3月31日現在)...	36

あ い さ つ

エコチル調査 福島ユニットセンター
センター長 橋 本 浩 一

～世界的国家プロジェクトの支え～

日頃はエコチル調査にご理解、ご協力を賜りまして感謝申し上げます。平成26年度のエコチル調査福島ユニットセンターの活動報告書をお届けします。

東日本大震災の直前に開始されたエコチル調査は、平成24年10月からの調査地域の全県下への拡大を経て、平成27年1月で満4年となり、いよいよ5年目に突入しました。最初の年に生まれた児は4歳となり、幼稚園に入園する子ども達もいます。妊婦さんの参加者登録においては、全国では目標の10万人を達成し、福島県では参加登録期間の妊婦さんの「お2人に1人」にあたる13,134人にご協力をいただきました。昨年12月までに出産が終了し、12,000人を超す子ども達と約8,000人の父親が参加されています。全15ユニット最多の参加者とともに、本調査はフォローアップを中心とする13年間の新たなステージへと本格的に乗り出しました。半年ごとの質問票の回収率は概ね90%であり、常に全15ユニットなかで上位グループで推移しています。最多の参加人数と高い質問票回収率は、福島県のご家族の皆さまの本調査への大きな期待を裏付けるもので、改めて責任の重さを感じています。また、昨年10月からは、全体の5%の方を無作為に選び、ご協力をお願いする詳細調査が開始されました。インフォームドコンセントの後に昨年11月からご自宅での環境測定、そして本年4月からは病院等での医学的検査、精神神経発達検査を実施しています。

環境省がエコチル調査を実施するきっかけとなったのは、1997年に米国マイアミで開催されたG8環境大臣会合において「子どもの健康と環境」に関する宣言(マイアミ宣言)が出されたことによります。その後、世界でこの問題の重要性が再認識され、日本、デンマーク、フィンランド、アメリカが国家プロジェクトとして子どもの健康に関する疫

学研究に取り組んでできました。アメリカのNational Children's Studyは予算的実現性と科学的観点から、昨年12月に中止となりました。このような状況下で、改めて日本のエコチル調査は全世界から注目され、そして期待されています。

福島のご家族の一人おひとり、そして医療機関、行政機関の方々など関係者のご理解とご協力が、世界的な国家プロジェクトであるエコチル調査を支えています。関係者の皆さまと立ち止まることなく、一緒に福島の子どもたちの成長を見守り、歩み続けて行きたいと存じます。

平成27年 6 月



1. エコチル調査の概要

(1)背景

『エコチル』とは、「エコロジー」と「チルドレン」を組み合わせた言葉で、『エコチル調査』は、「子どもの健康と環境に関する全国調査」の愛称である。

近年、子どもの間では、ぜん息やアトピーなどの疾病が増加しており、その多くは生活環境の中の物質、運動や食事などの生活習慣、遺伝的な性質などが関係しあって起こるとされている。

小児は各器官の構造や機能が成熟する時期が異なり、また身体的特徴や行動特性によって環境中の有害物に対する特異的な曝露形態があり、化学物質の体内動態にも成人と違いがあるなど、子ども特有の脆弱性が認められる。

このような環境リスクが子どもに与える影響を明らかにするため、実際の人の集団で観察する疫学的なアプローチが重要であることから、これまでに例を見ない大規模な調査を実施することとなった。

(2)環境省等による企画・実施

エコチル調査は、環境省が企画し、コアセンター(国立環境研究所)が実施主体となって、メディカルサポートセンター(国立成育医療研究センター)及び全国の15ユニットセンターの協働により、平成22年度から実施されている。

- ① 平成22年3月 「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」
基本計画を作成・公表
- ② 平成23年1月 「エコチル調査・妊婦さんの参加者募集(リクルート)」を開始
- ③ 平成24年10月 全国15地域を対象に、調査で解析する環境要因に放射線を追加するとともに、福島県における調査対象地域を全県に拡大
- ④ 平成26年3月 リクルート終了
- ⑤ 平成26年11月 詳細調査の中の訪問調査(生活環境調査)を開始

(3)調査の内容

1)期 間

- ① 平成23年1月～26年3月 参加者募集(リクルート)
- ② 平成23年1月～39年 全体調査
- ③ 平成26年11月～39年 詳細調査(訪問調査)

詳細調査(医学的検査・精神神経発達検査)

④ 平成39年～44年

解析

2) 対象地域

- 全国15地域(北海道、宮城、福島、千葉、神奈川、甲信、愛知、富山、京都、大阪、兵庫、鳥取、高知、福岡、南九州・沖縄)
- 福島の対象地域 平成23年1月～県北・双葉郡等の10市町村
(福島市、南相馬市、双葉郡8町村)
平成23年6月～県北の4市町を追加(伊達市、伊達郡3町)
平成24年10月～全県(上記含めた59市町村)

3) 対象者

- ・調査対象地域に住民票があり、かつ協力医療機関で出産した母親・子ども及び父親で、エコチル調査に同意をいただいた方
- ・全国で10万組の母親・子どもを目標参加者数とし、達成した(うち、詳細調査は5%の約5,000人)。

4) 調査項目

① 母親に実施される項目

- ・ 妊娠初期及び妊娠後期 : 質問票、採血、採尿
- ・ 出産時 : 臍帯血採取
- ・ 出産後 : 採血、毛髪採取
- ・ 出産後1ヵ月健診時 : 母乳採取、質問票
- ・ その後半年ごとに児13歳まで : 質問票

② 児に実施される項目

- ・ 出産後 : 3 紙血採血
- ・ 出産後 1 ヲ月健診時 : 毛髪採取

③ 父親に実施される項目

- ・採血、質問票

④ 母親参加者総数の5%の参加者を対象に実施される項目(詳細調査)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ・1.5歳児、3歳児、6歳児以降1～2回 | 詳細調査(訪問調査) |
| ・2歳児～2歳ごとに12歳まで | 詳細調査(医学的検査、精神神経発達検査) |

2. 平成22～25年度の主な活動実績

(1) リクルート等の実績

1) 平成23年1月～26年3月までの母親参加者数(最終リクルート数)

	13,134人(全国：103,106人)
① 22年度(23年1月～3月)	192人
② 23年度(23年4月～24年3月)	1,530人
③ 24年度(24年4月～25年3月)	4,227人
④ 25年度(25年4月～26年3月)	7,185人(リクルート終了)

2) フォローアップ活動

妊娠初期～生後1ヵ月については、医療機関や当センターのRCにおいて回収状況などの進捗管理を実施し、生後6ヵ月～3.5歳は当センターにおいて、回収状況の確認、質問票への記入漏れをチェックした。

その際、メンタルチェック等で気にかかる回答がある場合は、参加者に直接電話連絡をとり、近況の確認や育児相談等に応じた。

(2) 調査推進のための活動

調査開始前から、市町村及び関係医療機関などに本調査の意義などを説明し、協力体制づくりに努めた。調査開始後も、県民に周知を図り、参加者の協力を得るため、広報活動に力を注いだ。

また、エコチル調査に関する意義を理解してもらい、認知度を高め、1人でも多くの妊婦さんに参加いただくよう、様々な活動を展開した。

1) 市町村訪問

- ・ 調査開始時に県内全市町村を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。
- ・ 東日本大震災以後、毎年原発事故被災市町村(南相馬市・双葉郡8町村)を訪問し、子どもの生活環境の聴取及び調査推進等に係る支援要請

2) 医療機関訪問

- ・ 調査開始時に、産婦人科52協力医療機関を訪問し、調査に対する理解と協力を求めた。

- ・平成25年度：52医療機関を訪問し、リクルート数確保の依頼からリクルート期間終了に至る周知に努めたほか、小児科基幹7病院に対して、詳細調査に係る理解と協力を求めた。

3)地域運営協議会開催

- ・22年度：2回、23年度：3回、24年度：4回、25年度：5回

4)RC代行研修実施

- ・22年度：3回、23年度：5回、24年度：19回、25年度：9回

5)イベント等開催

- ① 23年度：参加者を対象に「よみきかせ&エコチルコンサート」を開催
(3月10日：福島市)
- ② 23年度：医療機関スタッフ及び参加者を対象に「放射線に関する講演会」を2回開催
(7月4日、10月9日：福島市)
- ③ 24年度：県民及び参加者を対象に「エコチルコンサート」を2回開催
(10月28日：本宮市、11月3日：福島市)
- ④ 25年度：エコチルコンサート4回開催
(6月15日：会津若松市、7月13日：いわき市、11月10日：郡山市、11月16日：福島市)
：キャラクター「こぼちる」の発表と命名者の表彰式
(11月10日郡山市におけるコンサート会場)

6)ふれあい会開催

- 24年度：県北地域参加者の0.5歳児及びその親を対象に3回実施
(6月6日、8月29日、12月19日：福島市)
- 25年度：県北地域参加者の0.5歳児及びその親を対象に3回実施
(4月17日、8月28日、12月18日：福島市)
- 県北地域参加者の1.5歳児及びその親を対象に2回実施
(6月2日、9月25日：福島市)

7)広報活動

① マスコミでのPR

- ・ テレビ・ラジオ・新聞・地域情報誌等にCM記事の提供と広告の掲載

② ニュースレター発行

- ・ 参加者向けの「ふくしまエコチル新聞」を発行
(23年度：2回、24年度：2回、25年度：1回)

③ 市町村広報誌等への記事掲載(23年度：5回、24年度：12回、25年度：8回)

④ 活動報告書の発行

- ・ 市町村向け：「エコチル★活動報告」(25年度：9回)
- ・ 協力医療機関向け：「エコチル★だより」(25年度：12回)

⑤ 市町村・各種団体イベントへの参加

- ・ 福島市「健康フェスタ」、ラジオ福島「さくら祭り」等におけるエコチルのブース設置等
(25年度：4回)

3. 平成26年度活動実績

(1) リクルート等の実績

平成23年1月31日から、福島市と南相馬市、双葉郡を併せた10市町村を対象地区として、産科医療機関を受診した妊婦とその配偶者を対象にリクルート(参加登録)を開始した。

東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所の事故により、双葉郡は中断となり、その後、県北地域の4市町が加わり、さらに平成24年10月からは県内59全市町村を対象地域とし参加者募集を行った。

平成26年3月31日をもってリクルートは終了した。父親のリクルートと児の登録は、母親が出産し1カ月健診が終了した12月まで実施した。

この結果、母親の最終参加者数は13,134人、同意率は78.6%であった(目標数15,900人の82.6%の達成率)。また、父親の参加者数は8,695人、子どもの登録数は出生後12,835人であった。

表1 対象地域の変化とリクルート(参加登録)目標数追加の経緯

項目	開始時	平成24年10月以降
調査対象地域	10市町村(福島市、南相馬市、双葉郡)	福島県59全市町村
協力医療機関(産科)	19医療機関	52医療機関(うち茨城県1機関)
リクルート予定人数	6,900人	15,900人(拡大9,000人追加)
リクルート期間	平成23年1月～26年3月(3年2カ月)	平成24年10月～26年3月(1年半)

(2) フォローアップ状況

1) 質問票の回収状況

児を出産し1カ月健診までの調査票回収の管理は、産科医療機関において積極的に対応していただいた。

産後6カ月ごとの調査は半年ごとに、コアセンターから質問票が郵送され、記入後ユニットセンターへ返送される。

平成27年3月31日現在での質問票の回収状況(表2)は、6か月質問票は97.0%であるが、年齢経過と共に回収率が低下している。全国15ユニットの平均に比較するとやや高い状況であるが、回収率をいかに維持していくかが今後の課題である。

表2 質問票の回収状況(平成27年3月31日現在)

調査時期	発送数(人)	回収数(人)	回収率(%)	
			福島	15ユニット
6か月質問票	9,674	9,387	97.0	91.9
1.0歳児質問票	6,462	6,100	94.4	87.8
1.5歳児質問票	3,221	2,965	92.1	83.7
2.0歳児質問票	1,779	1,601	90.0	81.1
2.5歳児質問票	910	910	89.1	77.4
3.0歳児質問票	327	288	88.1	71.4

(発送後6か月以上)

2) 打ち切り・取り止め数について

流産、中絶、子宮内死亡、新生児死亡など児(胎児)の死亡等により調査継続ができなくなった場合を「調査打ち切り」、児は追跡可能であるが、里帰り、避難、転居・転院、質問票が大変、多忙・余裕がないなど児の代諾者の理由により調査継続ができなくなった場合を「調査取止め」としている。

平成27年2月12日現在、調査打ち切りが167名、調査取止めが368名、母親同意数に対してそれぞれ1.3%、2.8%であった。

3) フォローアップの今後の課題

- ① 年齢が上がるごとに質問票回収率が低下している。
- ② 取りやめ数が少しずつ増加している。

4) フォローアップ率維持のための対応

○目標：13年後フォローアップ率80%以上維持

○対応：エコチル調査の意義を再認識してもらい、「エコチル調査に参加して良かった」「13年間エコチル調査を続けたい」と思ってもらえるように、参加者の思いを大切にした督促の方法やイベント開催を工夫して、参加者のモチベーション維持に努めている。

○督促：単なる督促でなく、参加者の子育ての大変さを理解した応対

- ① ショートメール又は電話での連絡

各質問票の発送後1カ月経過後の未回収者に連絡(育児相談、母子の近況聴取を兼ねる)

- ② ハガキを送付

2ヶ月経過後の未回収者へは、体調を気遣う一文を入れたハガキを郵送

○エコチル通信の発行・・・年2回参加者全員に配布

- ① 調査結果の一部報告 ② イベントや子育て情報の提供
- ③ 医療機関・市町村などエコチル調査関係機関へ配布

○市町村でのイベントへの参加

- ① 地域における乳幼児健診やイベント時の声かけ依頼
- ② 市町村スタッフからの声かけ(ファミリーフェスタ・健康フェスタ等での声かけ)

○各地域において対象児毎イベントの開催

- ① エコチルふれあい会(後述の「(7)広報活動」を参照)

(3)詳細調査について

詳細調査をスムーズに実施するため、福島ユニットセンターでは詳細調査ワーキンググループを組織し、訪問調査開始前に3回、開始後1回、計4回の会議を開催した。

その後は福島本部・郡山事務所間で連絡調整の上、訪問調査の実施と医学的検査・精神神経発達検査の準備を進めた。

1)訪問調査の開始

- ・平成26年10月から詳細調査のリクルートを開始

それに先立ち、コアセンター主催の「詳細調査リクルート・訪問調査研修」が開催された(センター長ほかRC10名、事務員3名が参加)。

- ・平成26年10月、コアセンターから第1次候補者リストが提供

候補者リストに基づき、リクルート開始。同意を得た候補者と日程調整の上、平成26年11月から訪問調査を実施。

- ・平成26年12月、コアセンターから第2次候補者リストが提供

平成27年3月に第3次候補者リストが提供。

順次、詳細調査への協力依頼、日程調整、訪問調査を実施している。

- ※ 3月末までのリクルート数は第1次抽出95名(リクルート完了)、第2次抽出109名、第3次抽出29名。

(第7次抽出まで：最終目標リクルート数637名)

- ※ 3月末までの訪問調査実施件数は、179件。

2) 医学的検査・精神神経発達検査に係る準備

- ① 詳細調査の医学的検査および精神神経発達検査を実施するため、下記の医療機関・施設に協力を求め承諾を得た。精神神経発達検査の検査会場として場所のみを借用する医療機関においては、ユニットセンターの職員(心理士)が出向いて検査を実施することとした。

表3 協力病院・施設

	協力医療機関・施設	医学的検査	発達検査
1	公立藤田総合病院	○	検査会場借用
2	大原総合病院	○	
3	福島県立医科大学附属病院	○	○
4	公立相馬総合病院	○	検査会場借用
5	星総合病院	○	○
6	太田西ノ内病院	○	○
7	白河厚生総合病院	○	検査会場借用
8	竹田総合病院	○	○
9	福島県立南会津病院	○	検査会場借用
10	いわき市立総合磐城共立病院	○	
11	子どもの家(いわき)		○

- ② 医学的検査及び精神神経発達検査は、統一した検査方法・検査用具を使用することから、検査担当者の研修会や認定試験等が開催されたほか、各協力医療機関・施設の担当者に対する説明や打ち合わせを実施した。

<研修会・認定試験>

- ・平成26年9月 新版K式発達検査初級研修(大阪府)
- ・平成27年1月 医学的検査担当者研修(国立成育医療研究センター)
- ・平成27年2月 医学的検査担当医師合同研修(同上)
- ・平成27年3月 新版K式発達検査 認定試験 実技(東京都)

<新版K式発達検査 リーダー会合>(東京都)

第1回(平成26年9月)、第2回(平成27年2月)

<各協力医療機関・施設の検査担当者に対する「エコチル調査」の概要説明>

- ・平成26年10月 精神神経発達検査担当者への説明(郡山事務所)
- ・平成27年2月～3月 協力医療機関における説明(協力医療機関9施設)

<協力医療機関・施設との実施に向けた打ち合わせ>

平成27年2月～3月：各協力医療機関において、検査担当者(医師、看護師、事務、臨床心理士等)とRCのシミュレーションを含む打ち合わせを実施し、それを踏まえた各協力医療機関・施設毎の検査マニュアルを作成して4月からの検査に備えた。

- ③ 医学的検査および精神神経発達検査に必要な物品で、統一した規格の検査用具等に関してはコアセンターから送付され、そのうち大きな物品は、直接、検査病院・施設に送付され、検査開始日までに使えるように準備した。

(4)地域運営協議会開催

1)開催目的

エコチル調査の円滑な遂行を図るために、行政・医療機関等の委員に対し調査実績や今後の調査に関する情報発信、普及啓発を行なうとともに、情報交流の推進を図った。

2)開催状況

平成26年度は、県及び各地域の運営協議会を計5回開催した。

表4 地域運営協議会の開催状況

	協議会名称	開催日	開催地
1	福島県地域運営協議会	7月23日(水)	福島市
2	会津地域運営協議会	10月22日(水)	会津若松市
3	県北・相双地域運営協議会	10月27日(月)	福島市
4	いわき地域運営協議会	11月20日(木)	いわき市
5	県中・県南地域運営協議会	11月26日(水)	郡山市

3)内容

- ・環境省・コアセンターの責任者から調査にかかる情報やご意見をいただいた。
- ・本県のエコチル調査の活動状況を報告した。
- ・参加者に13年間調査を継続してもらうための方策について、委員から様々なご意見をいただいた。

福島県地域運営協議会(平成26年7月23日：福島市)



(5)市町村訪問

・平成26年8月

調査開始時に対象地域であったものの、平成23年3月の原発事故により避難した南相馬市および双葉郡の8町村を、県内各地にある仮役場などに訪問し、子どもの生活環境などを聴取するとともに、調査の推進等を依頼した。

(6)医療機関訪問

1)平成26年11～12月

産科医療機関での参加者様の出産も終了し、支所として常駐していた医療機関をはじめ、県内42医療機関を訪問し、長期にわたる産科医療機関スタッフの皆様のご支援、ご協力に対し感謝申し上げます。

2)平成27年2～3月

平成27年度から始まる詳細調査(医学的検査、精神発達検査)の準備のため小児科の基幹医療機関10病院を訪問し、概要を説明するとともに実施に向けて課題などを聴取した。

(7)広報活動

平成26年度は、産科医療機関における出産・産後1ヵ月健診、父親のリクルートも終了する時期であったため、ユニットセンターから参加者一人ひとりに配慮したニューズレターを作成・発行し、ふれあい会等を実施した。

1) エコチルふれあい会の実施 

○ふれあい会の対象児と内容(別添「資料5」参照)

表5 ふれあい会の対象児と内容

対象児	ふれあい会の内容
6ヵ月児	①親子遊び ②ベビーマッサージ ③小児科医のミニ講話 ④茶話会(ママ同士のふれあい・スタッフとのふれあい・気軽に相談会)
1.5歳児	①絵本の読み聞かせ ②親子遊び ③親子ダンス ④ミニ講話 ⑤茶話会(ママ同士のふれあい・スタッフとのふれあい・気軽に相談会)
3歳児	①絵本の読み聞かせ ②親子遊び ③親子ダンス(3B体操) ④ミニ講話 ⑤茶話会(ママ同士のふれあい・スタッフとのふれあい・気軽に相談会)

○ふれあい会の開催状況(回数)

実施回数は3年間で46回(29日)であった

表6 ふれあい会の開催状況(回数)

対象児	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計(回)
6ヵ月児	3	5	28	36
1.5歳児		3	5	8
3歳児			2	2
計	3	8	35	46

○ふれあい会の参加者数

3年間で860組の親子が参加し、平成26年度は県内各地域で開催し、参加者同士の交流、参加者とスタッフの交流を目的に実施した。

表7 ふれあい会の参加者数

対象児	平成24年度	平成25年度	平成26年度	計(組)
6ヵ月児	75	140	523	738
1.5歳児		37	76	113
3歳児			9	9
計	75	177	608	860

(平成24年度・25年度は県北地域のみ、26年度から全県で開催)

2) ニュースレターの発行

2014年夏号(平成26年7月)及び2015年新春号(平成27年1月)の2回発行。「エコチル調査でわかったこと」や「エコチルふれあい会」の様子、詳細調査等に関する情報等を提供した。(参加者あて約12,200部、市町村等関係機関あて約600部、計12,800部発送)(別添「資料3及び4」参照)

3) 協力医療機関及び市町村への活動報告

① 協力医療機関への活動報告

リクルート期間中は、毎月約50カ所の協力医療機関に対して「エコチル★だより」を発行し、各医療機関の実績やインシデントの発生状況、今後の予定や実施したイベントの報告を行った。また、リクルート終了後は上記の内容に質問票の回収状況を追加し、フォローアップの経過を報告した(15～19号まで発行)。

「エコチル★だより」19号



エコチル★だより 第19号

各医療機関 御中 トピック

詳細調査が始まります

リクルート進捗状況

≪リクルート進捗状況≫

調査時期	母親同意数 (同意率%)	父親同意数 (同意率%)	子ども登録数
福島県累計	13,134 (78.6)	8,622 (94.8)	11,791
全国ユニット合計	103,106 (78.5)	51,567 (94.9)	93,352

(2014年9月30日現在)

フォローアップ状況 (発送後6ヶ月以上完了数)

調査時期	発送数	回収数	回収率
6ヶ月児質問票	6,455	6,236	96.6%
1歳児質問票	3,228	3,009	93.2%
1.5歳児質問票	1,779	1,647	92.6%
2歳児質問票	1,022	927	90.7%
2.5歳児質問票	327	292	89.3%

(2014年9月30日現在)

8～9月のインシデント報告事例
(計4件・福島地域 0件・拡大地域 4件)

1. 生体試料関連 [4件]

- ・チェックリストの記載漏れ、確認不足によりMT2の採尿採取を2回実施した。
- ・確認・連絡不足により出産時の検体が全て採取されなかった。
- ・確認・連絡不足によりMT2の生体試料すべてが採取されなかった。
- ・生体試料伝票を紛失した。

お知らせ

○ エコチル調査の現状などを議題に平成26年度各地域の運営協議会を開催します。

10/22 (水)	会津地域	(会津ワシントンホテル)
10/27 (月)	東北・相双地域	(ウェディング エルティ)
11/20 (木)	いわき地域	(いわきワシントンホテル)
11/26 (水)	県中・県南地域	(郡山ビューホテル)

順次ご案内状を発送いたしますのでご出席くださるよう宜しくお願いいたします。

○ 詳細調査が開始されます

2013年4月1日以降に出生された方を対象に詳細調査が開始されます。福島県全体では無作為に選ばれた637名に協力をお願いします。調査の内容としては、1歳6ヶ月・3歳時には「訪問調査(環境調査)」を行い、2歳・4歳時には「医学的検査」「精神神経発達検査」を行います。来春以降、医学的検査や発達検査でご協力をいただく医療機関もありますので、よろしくお願いたします。今月よりリクルートを開始しており、11月からの訪問調査にむけて現在準備を進めています。

イベント

○ 約6ヶ月児を対象とした『エコチルふれあい会』を8/20白河、8/27福島、9/3いわき、9/17郡山、10/1会津の各地域で開催し、県南地域18組、県北地域59組、いわき地域23組、県中地域37組、会津地域10組の親子に参加いただきました(写真は8/27開催の白河地区)。アンケート結果では同じ月齢の子どもと触れ合えて良かった、同世代のママたちと話ができて良かった、疑問に思っていたことが聞けて良かった等の意見をいただきました。

○ 9月28日(日)福島市アオウエにおいて行われた『健康フェスタ』に参加し、エコチル調査の広報活動を行いました。来訪された方に、調査の参加状況やこれまでにわかった結果などを説明し、調査への理解とご協力をお願いしました。



【編集・発行】 福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター
(福島本部事務局) 〒960-1295 福島市光が丘1
TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
(郡山事務局) 〒963-8024 郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-983-4780 FAX 024-983-4751
<http://www.ecochi-fukushima.jp/>

ご意見・ご要望などございましたら、常駐RC・巡回時等の際にお聞かせください

②市町村への活動報告

県内全ての市町村に対し「エコチル★活動報告」を発行し、県内の保健所管内ごとのリクルートの実績やエコチル調査を取り巻く最新の情報等を報告した。エコチル参加の親子への継続的な声掛けや支援について依頼した。（5回発行）

市町村向け活動報告書



平成26年10月
Vol.14

最新のリクルート状況をお届けします

エコチル★ふくしま活動報告

日頃は、エコチル調査にご協力賜り、厚く御礼申し上げます。
平成26年3月にリクルートが終了となりました。また、お母さんの参加者数が「13,134人」、9月30日時点の県内のお父さんの参加は「8,571人」、誕生したお子さんも「11,791人」となりました！

居住地別参加状況

(H26.9.30現在)

	お母さん	お父さん
保健所管内別	県北保健所	5,711
	県中保健所	1,243
	県南保健所	843
	会津保健所	1,279
	南会津保健所	128
	相双保健所	390
	郡山市保健所	1,743
	いわき市保健所	1,790
その他（※）	7	15
福島県全体	13,134	8,571

※「その他」：他ユニットセンター調査対象地域在住で、本県協力医療機関にて出産しリクルートした者

- 平成23年1月末日より県北保健所管内の福島市、相双保健所管内の南相馬市、双葉郡で調査開始。平成23年6月1日より県北保健所管内の伊達市、伊達郡で開始。その後、平成24年10月より福島県内全59市町村で調査開始。ただし、南相馬市、双葉郡は東日本大震災以後中断。
- 県北保健所管内の参加者数が突出しているのは、以上に示したように調査期間が長いため。
- 「お子さん」の人数は、全県で11,791人です。(H26.9.30現在)

全国では…

(H26.9.30現在)		
お母さん	お父さん	お子さん
103,106	51,587	93,352

各地域にて地域運営協議会を開催します。

10月22日(水)の会津地域運営協議会を皮切りに、各地域にて下記の通り地域運営協議会を開催します。運営協議会委員の皆様より、お子さんが13歳になるまで長期間にわたる参加継続を維持するための方策や、エコチル調査に期待することなどについて、ご提案やご意見をいただきます。

委員の皆様へは、別途開催通知をお送りしますので、ご出席くださるようよろしくお願いします。

◇会津地域運営協議会
平成26年10月22日(水) 会津若松ワシントンホテル

◇県北・相双地域運営協議会
平成26年10月27日(月) ウエディングエルティ（福島市）

◇いわき地域運営協議会
平成26年11月20日(木) いわきワシントンホテル

◇県中・県南地域運営協議会
平成26年11月26日(水) 郡山ビューホテル

2014年10月より詳細調査のリクルートが始まります。

エコチル調査では、福島県にお住まいのお母様にお声掛けし、13,000人を超える方々にご参加いただき、全体調査を実施してまいりました。

しかし、全体調査で半年ごとに回答いただいている質問票の調査だけでは、医学的・専門的情報を得ることが難しいという問題があります。そのため、実際にご家庭にお伺して子どもたちの居住・生活環境について測定したり、成長や発達の変化について医師などの専門家が検査したりする「詳細調査」を行います。

○全国10万人の参加者のうち、5,000人
福島県では「637人」の皆様に変更のご協力をいただいて調査を実施します。

エコチル調査の参加者10万人全員に対して詳しい調査をすることはできないため、以下を共に満たす参加者からコンピュータで無作為に選ばれた皆さまに、順次資料をお送りし、電話にてご協力をお願いいたします。

- これまで血液・尿などをご提供いただき、妊娠期・出産後の質問票を全て提出いただいた方
- 2013年4月1日以降に生まれたお子さん

詳しくは、福島ユニットセンターのホームページをご覧ください。

各地域で、『エコチルふれあい会』を実施しました。

参加者同士の交流をはかり、子育てをサポートの一環として、調査に参加されている親子を対象とした「エコチルふれあい会」を開催し、ベビーマッサージ、育児相談、小児科医のお話、茶話会を行いました。

和やかな雰囲気の中で多くの育児相談などもあり、子育て中の参加者同士では話が弾み、今後もこのような機会を作って欲しいというご意見をいただきました。

(平26.8.20 白河市・中央老人福祉センター)

(平26.8.27 福島市・アクティヴシアター A02)

(平26.9.3 いわき市・中央公民館)

(平26.9.17 郡山市・カルチャーパーク)

(平26.10.1 会津若松市・会津稲古堂)

【編集・発行】福島県立医科大学 エコチル調査福島ユニットセンター
(福島本部事務所) 〒960-1295 福島市光が丘1
TEL 024-547-1449 FAX 024-547-1448
(郡山事務所) 〒963-8024 郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-983-4780 FAX 024-983-4751
(ホームページ)

4)市町村及び各種団体主催のイベントに参加

各市町村や団体で主催しているイベントにエコチルコーナーを設け、来場者にエコチル調査の周知や質問票の集計結果などについて広報活動を行った。

- ① 9月28日 福島市主催 「健康フェスタ」
- ② 10月5日 郡山市主催 「ファミリーフェスタ」

健康フェスタ



ファミリーフェスタ



(8)謝礼支払い(電子マネー)の運用状況

調査参加者への謝礼として当初より金券を送付していたが、平成26年3月から母親への謝礼を電子マネーによる支払いに切り替えた。

1)目 的

母親参加者約13,000人に今後13年間にわたって年2回、質問票への謝礼として金券での謝礼支払いを行うことは、人的・時間的な労力を要し、また、簡易書留の郵送費を伴うこととなる。これら膨大な労力と経費を削減するとともに、金券の紛失等の人的ミスを解消するため、謝礼の支払いを電子マネーに切り替えることとした。

また、平成26年11月から、参加者の5%にあたる637人の方を対象とする詳細調査が開始され、その謝礼についても電子マネーによる支払いとした。

2)適用範囲・対象者

母親参加者を対象とし、謝礼支払いの機会が1回のみのお父さんおよび銀行振込で支払っている医療機関は、対象外とする。

同意書や質問票を回収した母親について、11,943名(平成27年3月末現在)に電子マネーカードを送付し、謝礼をポイントとして付与した。



電子マネーカード

(9)その他研修等

1)RC代行研修

ユニットセンター職員等14人に対して、12回実施した。これまで実施した医療機関、市町村、ユニットセンター等の職員に対する研修は、計44回、受講者は計604人となった。

2)他ユニットセンター職員来訪時の情報交換会

高知ユニットセンターの医師・RCなどを迎え情報交換会を実施した。

開催日：平成26年11月21日(金)

開催場所：福島ユニットセンター新町事務所

目 的：エコチル調査の進行状況などに係る意見交換。

内 容：①フォローアップについて ②詳細調査について

3)職員研修

平成27年2月6日、全職員を対象に研修会を実施した。

研修会では、詳細調査や接遇、情報管理等の他、外部講師による教養講座を行った。

なお、研修に先立ち、リクルート数達成の努力に感謝する、盾(「努力の証」)がセンター長から職員の代表者に贈られた。

4. 実施体制

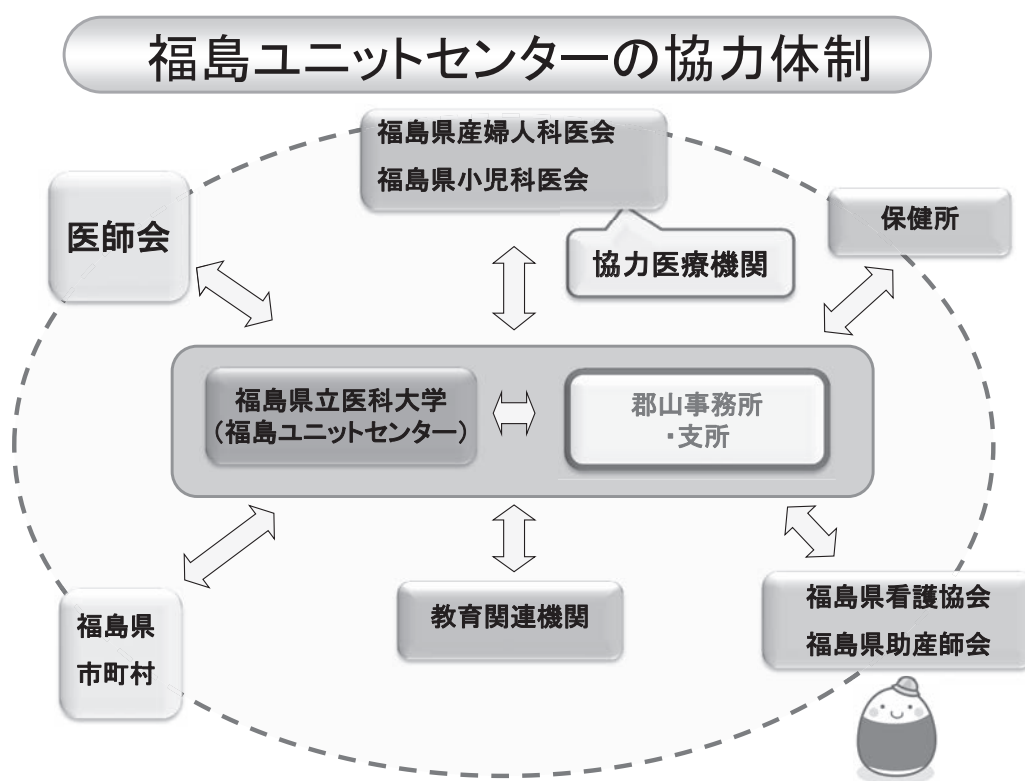
(1) 協力体制

1) 関係機関

福島県内の行政・医療機関など調査に関係するさまざまな機関にご協力をいただき、参加者のリクルートに努めた。

調査事業を始めて4年余、福島県の関係部署や保健所、全ての市町村、医師会や産婦人科医会、小児科医会、看護協会、助産師会、並びに教育機関などの関係機関に地域運営協議会のメンバーになっていただき、さまざまな場面で事業推進にご理解とご支援をいただいた。

福島ユニットセンターの協力体制



2) 協力医療機関

平成23年1月にリクルートを開始して以来、産婦人科を抱える県内医療機関の8割を超す医療機関において、母親のリクルート及び検体回収にご協力いただいた。登録いただいた協力医療機関は、一覧表のとおり。(別添「資料6」参照)

(2)ユニットセンター実施体制

1)平成23年 1 月

事業開始時は、県北・相双地域の10市町村を対象として、医科大学内において事務3人・RC 2人の計5人で業務を担当。

2)平成24年 4 月

事業開始直後の東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で双葉郡内はリクルートが中断、参加者等の行方等の確認や県北地域の4市町への調査対象地域拡大等により、スタッフを増員、事務8人・RC 6人の計14人で調査に当たる。

3)平成24年10月～

平成24年10月に調査対象地域の全県拡大に伴い、新たに郡山市内に事務所を設置。その支所を白河市内・会津若松市内・いわき市内に置いた。郡山事務所の職員数は開所後急増し、従来の福島本部事務所と併せて平成25年度は職員約60人、派遣職員10人余で事業を推進した。

4)平成26年12月～

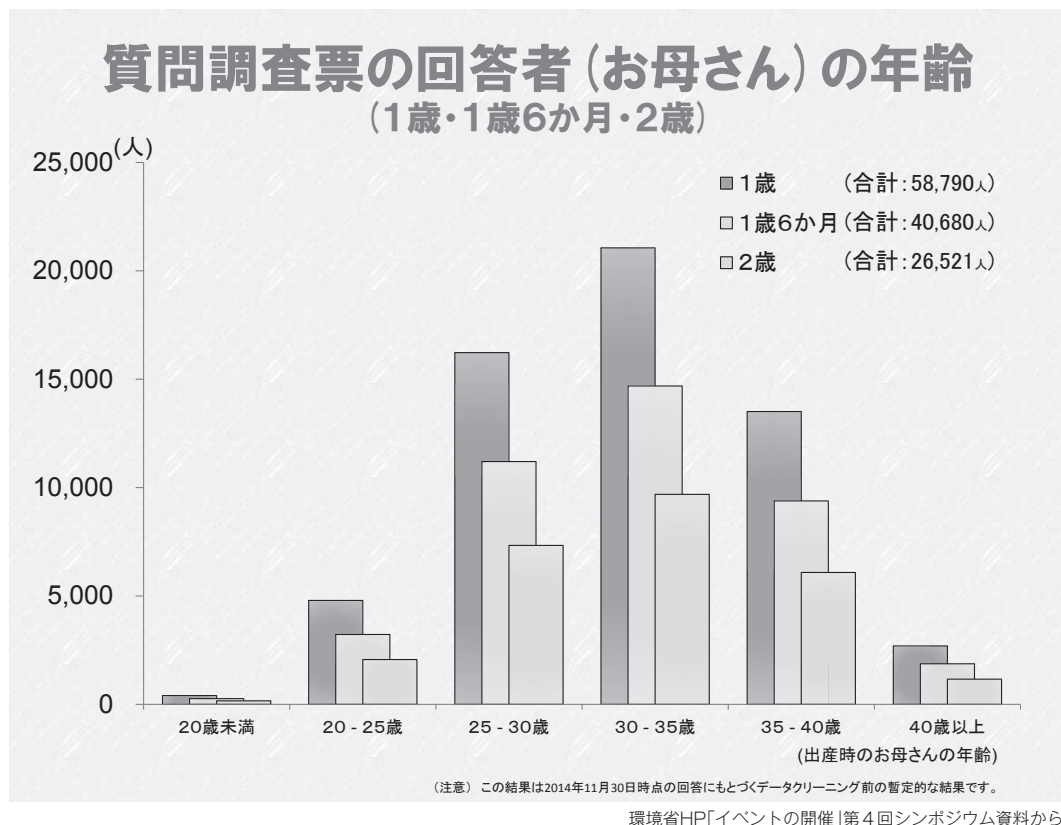
平成26年11月をもって3支所を廃止し、また、協力医療機関における常駐業務を終了したことに伴い、郡山事務所の職員数は19人に減少。福島本部事務所と併せ、平成26年度末の職員数は39人となった。(別添「資料7」参照)

◎ 資 料

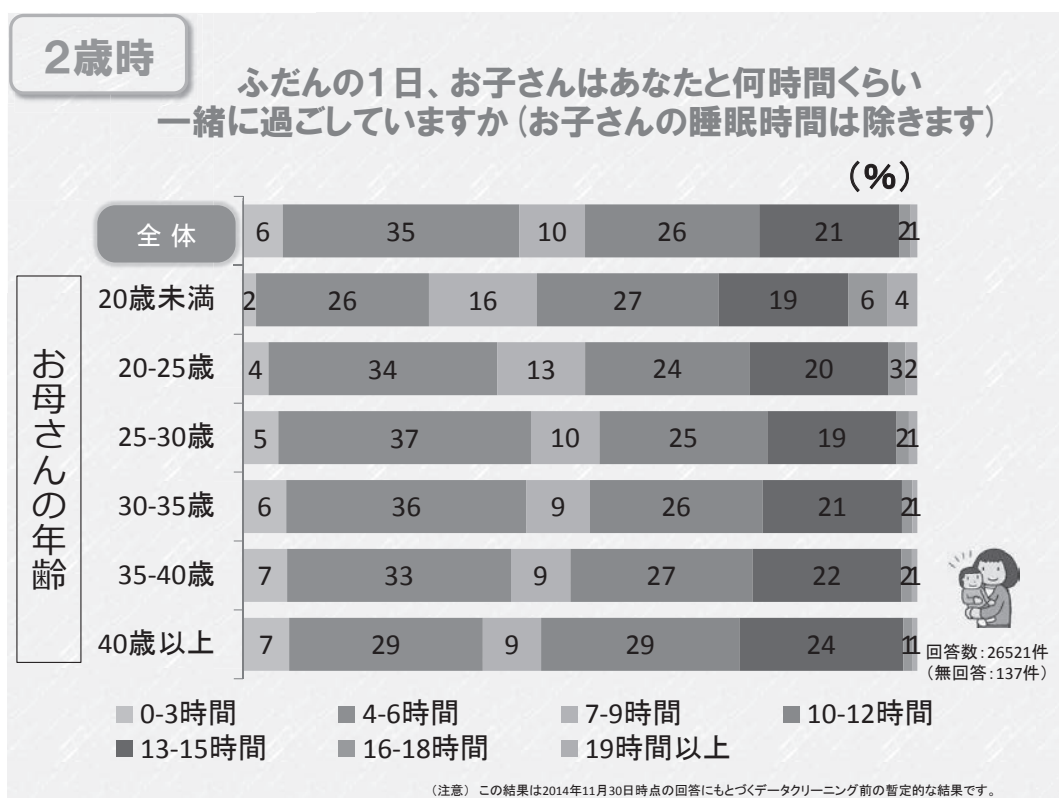
1. 全国集計データ分析結果

平成27年1月25日に開催された「第4回エコチル調査シンポジウム」(環境省主催)の資料の中から、主なものを掲載します。

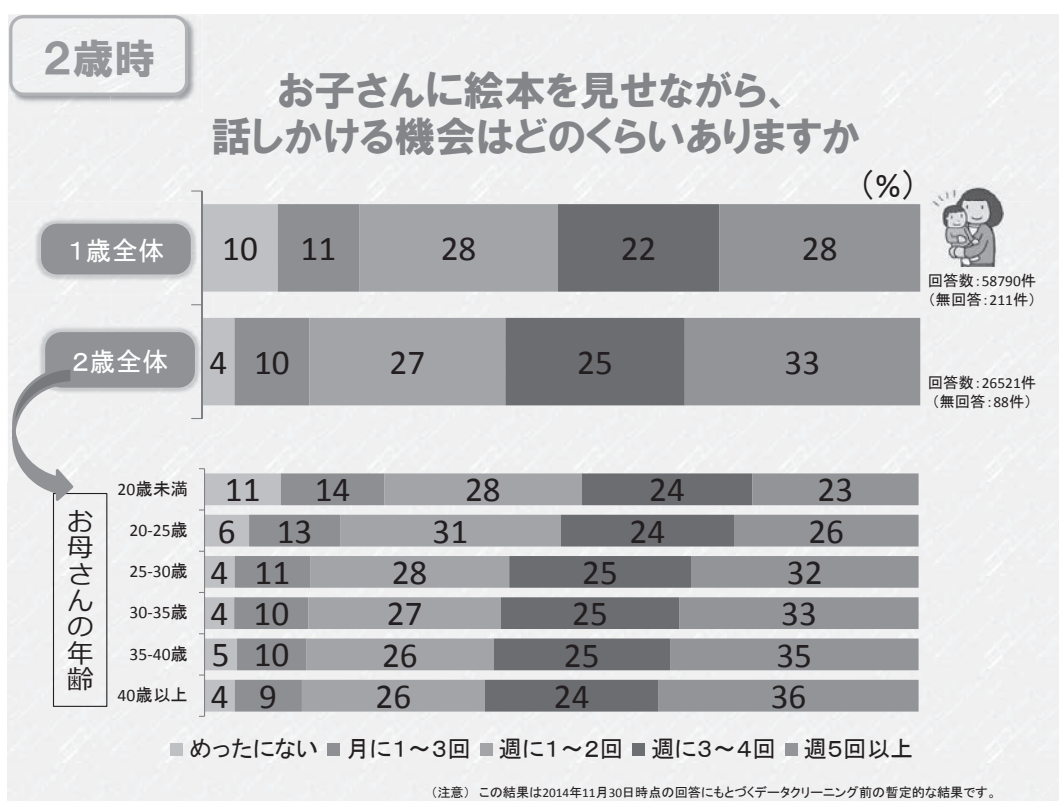
(注意) 図表の数値は、平成26年11月30日時点の回答にもとづくデータクリーニング前の暫定的な結果です。



【2歳時】



環境省HP「イベントの開催」第4回シンポジウム資料から

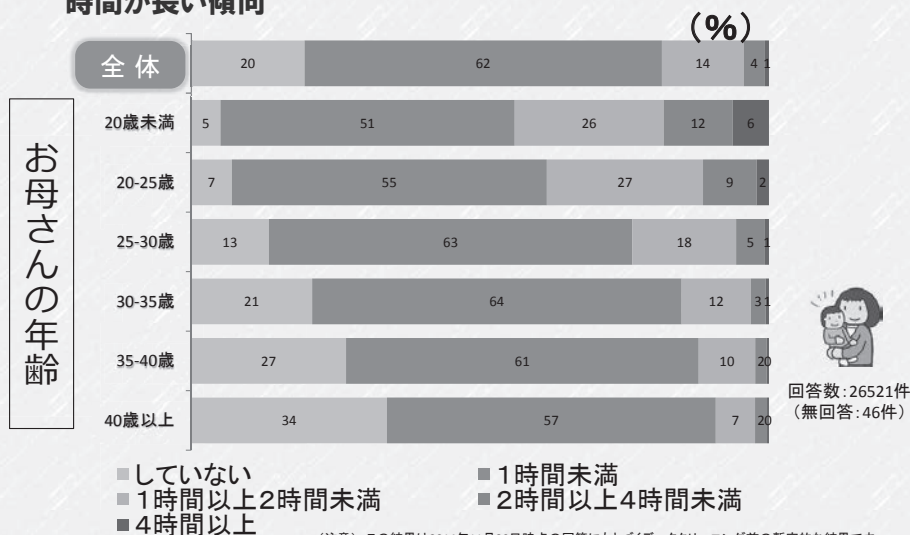


環境省HP「イベントの開催」第4回シンポジウム資料から

2歳時

お子さんと一緒に過ごしている時間のうち、
あなたが、パソコン、携帯電話、携帯情報端末や電子ゲーム機
などを使用している時間はどのくらいですか

⇒ 若いお母さんほど、お子さんのそばで、PCや携帯を使っている
時間が長い傾向

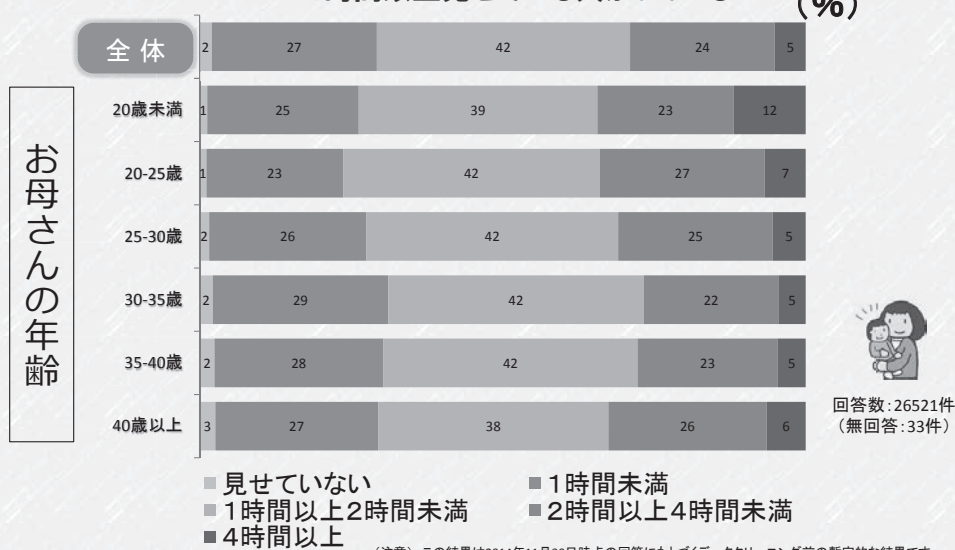


環境省HP「イベントの開催」第4回シンポジウム資料から

2歳時

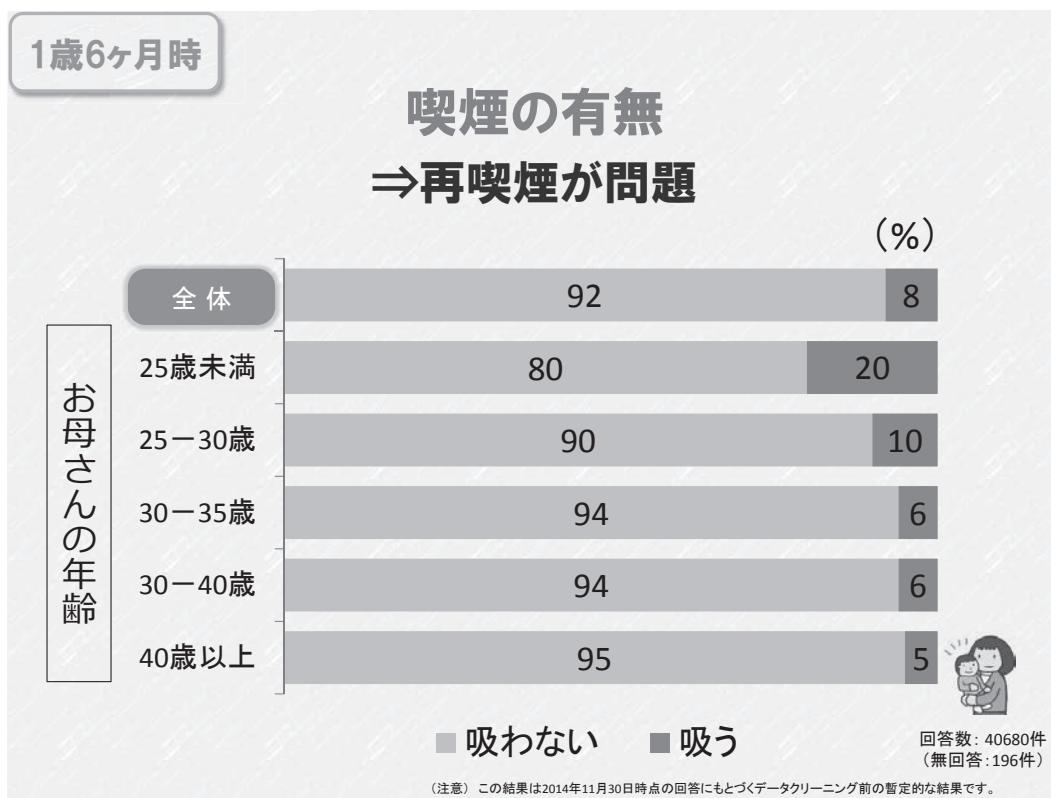
ふだんの1日、お子さんにテレビやDVDなどを
何時間くらい見せていますか

⇒ 4時間以上見せている人が5%いる (%)



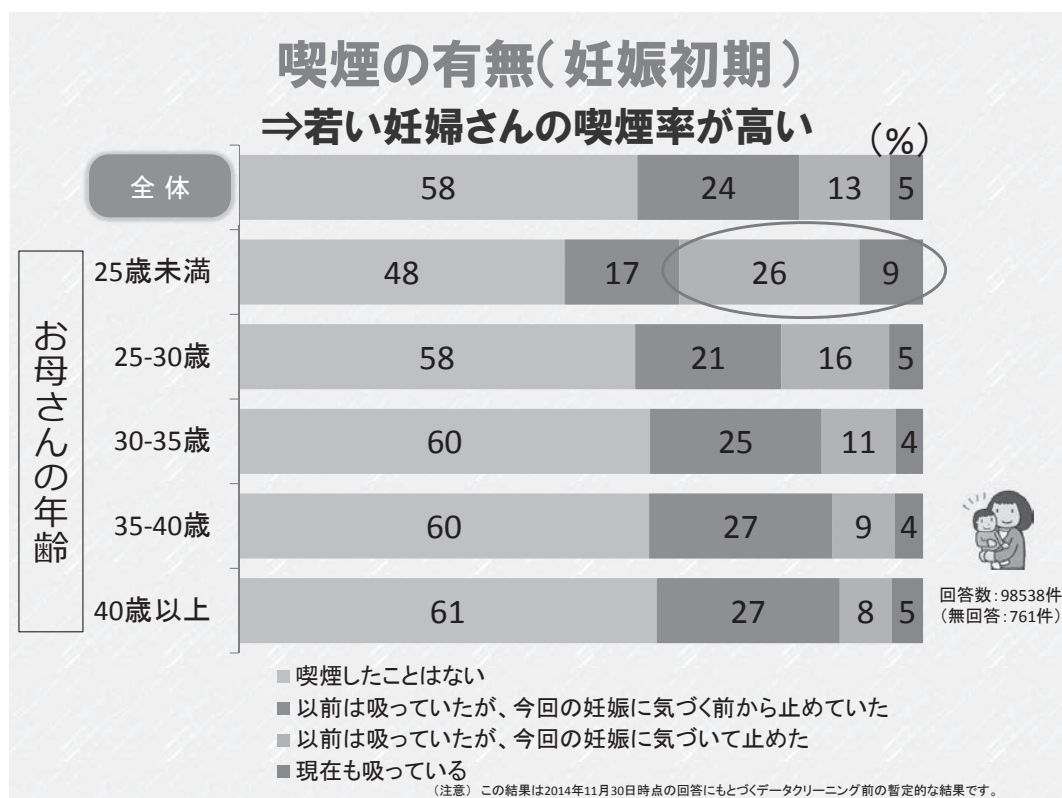
環境省HP「イベントの開催」第4回シンポジウム資料から

【1歳6ヶ月時】

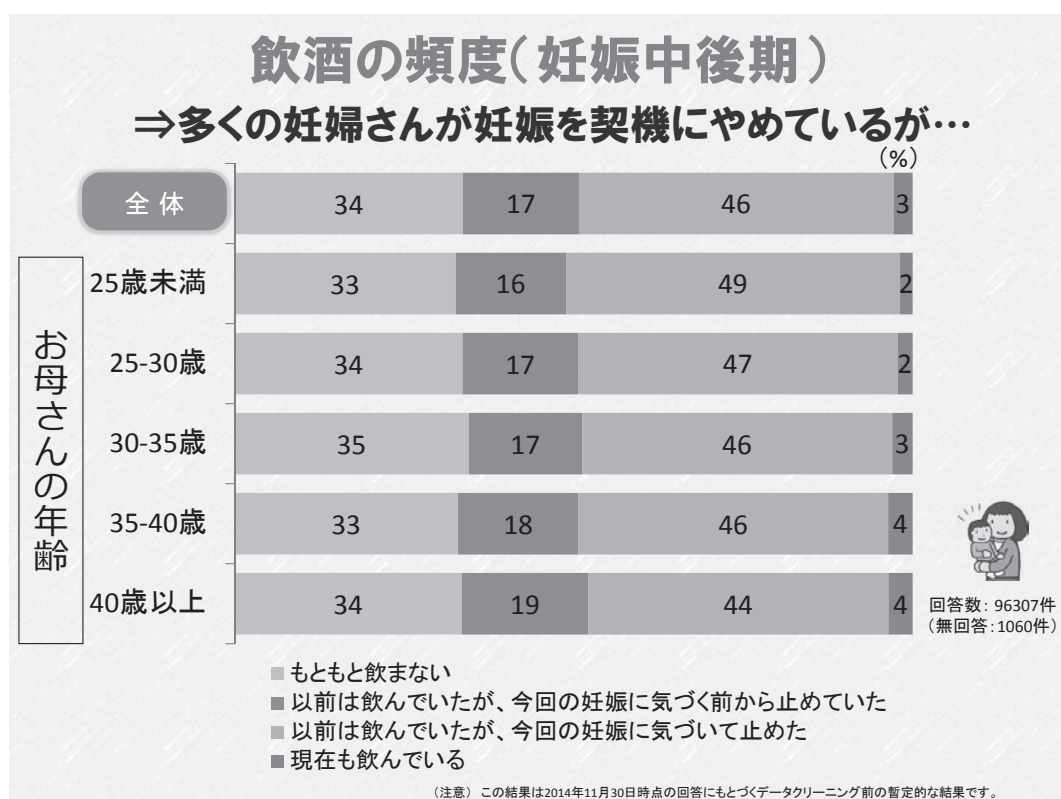


環境省HP「イベントの開催」第4回シンポジウム資料から

【妊娠初期～中後期】



環境省HP「イベントの開催」第4回シンポジウム資料から



環境省HP「イベントの開催」第4回シンポジウム資料から

2. 第4回エコチルシンポジウムポスター

「第4回エコチル調査シンポジウム」会場に掲示した福島ユニットセンターのポスターです。

- ・参加対象者人数 13,134人
- ・参加対象者地域 福島県全域(59市町村)

福島ユニットセンターのモットー



「福島で産み育てることのお手伝い」
「顔の見える」参加者とのコミュニケーション
子ども達への確かなエビデンスのプレゼント



	開始時	東日本大震災後、平成24年10月から 福島県に拡大
調査対象地域	14市町村	59市町村
協力医療機関	19機関	52機関(茨城県1機関)
リクルート予定人数	6,900人	15,900人【+拡大9,000人】
リクルート期間	平成23年1月～平成26年3月(3年間)	平成24年10月～平成26年3月(1年半)

福島県全体で産婦人科約60医療機関のうち51医療機関が協力
福島UCのカバー率 約50%・福島県の妊婦さんの「2人に1人」が参加
6か月児以降の質問票回収率 平均94.5%(平成26年9月30日現在、発送後6か月以上)

【講演会・コンサート】

平成23年度

- 講演会(福島市)
「放射線の正しい知識」
「胎児・子どもの放射線影響を考える」
- 絵本よみきかせ&エコチルコンサート(福島市)

平成24年度

- エコチルコンサート(本宮市、福島市)

平成25年度

- エコチルコンサート(いわき市・郡山市・会津若松市・福島市)
- 絵本のよ・み・き・か・せ(白河市)

【エコチルふれあい会】

6か月前後の児と家族

親子遊び・ベビーマッサージ
小児科医師ミニレクチャー・
茶話会(相談会・ママ同士)

1.5歳児と家族

親子遊び・親子ダンス
小児科医師ミニレクチャー・茶話会

3才児と家族

3B体操・親子ダンス・
小児科医師ミニレクチャー・茶話会

★ふれあい会開催回数

24年度 3回

25年度(約270組の親子) 10回

26年度(約1070組の親子) 32回

【追加調査】

- ①「妊娠合併症発症予知を目的とした代謝物質の調査」
- ②「東日本大震災後の子どもの精神状態と
発達障害との関連についての調査」
- ③「残余血清を用いた研究」(検討中)



「福島UCマスコットキャラクター」

全国1095通の応募の結果「**こぼちる**」に決定
～「子どもの健やかな成長」を願う想いを込めて～
福島県会津地域の民芸品、起き上がり小法師をモチーフにし、転んでも
起き上がりやすくすると元気に育つ子ども(赤ちゃん)をイメージ



絵本のよみきかせ



サンタ助産師による
ベビーマッサージ(5-6か月児)



お母さんの茶話会



サンタ小児科医師による
ミニレクチャー



エコチルコンサートでの
育児相談



親子ダンス(1.5歳児)



エコチルコンサート
(テツandトモと一緒に)



福島ユニットセンター 福島県立医科大学

3. ニュースレター：2014年夏号(平成26年7月発行)

Japan
Eco&Child
Study

2014年夏号

エコチル★ ふくしま 通信

発行 エコチル調査福島ユニットセンター

こぼちるパパ
こぼちるママ
こぼちるちゃん

●「ふくしまエコチル新聞」は「エコチル★ふくしま通信」としてリニューアル致しました。

“福島のがえお”を応援します

エコチル調査福島ユニットセンター長
小児科医
橋本 浩一

真夏を前に体調を崩されていないで
しょうか？

平成23年1月に開始されたエコチル調査は今年の3月末日に参加登録が無事終了しました。全国では目標の妊婦さんの参加登録10万人を達成し、福島県では「2人に1人の妊婦さん」に参加いただき13000人を超える人数となりました。そして、最初の年に出生したエコチルキッズは3才になりました。エコチルキッズは全員、3.11の震災

災後、誰もが不安を感じている中に誕生した私たちの希望の星、宝です。様々な状況の中で妊娠し、エコチル調査に参加していただき、そして子育てに奮闘している皆さまに改めまして感謝いたします。ありがとうございます。私たちエコチル調査福島ユニットセンターは「徹底しながら福島で産み育てることのお手伝い」をモットーに活動してきました。今年はこれまで県北地区で好評であった「エコチルふれ

あい会」を県内全域で19日のべ34回実施する予定です。エコチルスタッフが皆さまの“えがお”を探しに参ります。真っ赤な顔をし、玉のような汗の子どもたち、日陰ですやすやお昼寝する子どもたち。私たちは皆さまと一緒に子どもさんの成長を見守り、皆さまの“えがお”を応援します。

福島県内での参加人数
13,132人

半年ごとの質問票調査

生後6ヶ月から13才に達するまで、お子さまの成長を見守りながら健康状況の追跡調査をします。

生後6ヶ月

詳細調査が始まります。一部の参加者さまを対象に改めて協力の同意をいただいで実施します。

この期間、みなさまのご協力が必要です。みなさまの調査終了までのご参加が、エコチル調査の成果を作ります。

13才

未来の子どもたちへのプレゼント

エコチル調査の これからのスケジュール

4. ニュースレター：2015年新春号(平成27年1月発行)



発行／エコチル調査福島ユニットセンター



未来への「お年玉」



新年明けましておめでとうございます。

旧年中はエコチル調査にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。東日本大震災の直前に開始されたエコチル調査はこの1月で満4年となり、いよいよ5年目に突入します。最初の年に生まれたエコチルキッズは4歳となり、この春には幼稚園の年少さんへの入園でしょうか。お陰様でエコチル調査は全国では目標の10万人を達成し、福島県では13,134人の妊婦さんにご協力をいただきました。この参加人数は福島県内の対象となる妊婦さんの「お二人に一人」にご協力をいただいていることを意味します。本調査へ寄せられている大きな期待と責任を感じております。また、昨年10月からは、全体の5%の方を無作為に選びご協力をお願いする詳細調査の新たなステージへと乗り出しました。5%の方々には昨年11月からご自宅の環境測定、そして本年4月からは病院での医学的検査、精神神経発達検査もお願いすることになります。

ご承知のことと思いますが、環境省がエコチル調査を実施するきっかけとなったのは、1997年に米国マイアミで開催されたG8環境大臣会合において「子どもの健康と環境」に関する宣言（マイアミ宣言）が出されたことによります。その後、世

界でこの問題の重要性が再認識され、現在、日本、デンマーク、フィンランド、アメリカが国家プロジェクトとして子どもの健康に関する疫学研究に取り組んでいます。福島のご家族の一人おひとりのご協力が世界的な国家プロジェクトであるエコチル調査を支えています。

新たな年を迎え、エコチル調査福島ユニットセンターは、微力ながら「福島で産み育てる」お手伝いをするのが最大の課題であると改めて胸に刻み、日本の未来の子どもたち、そしてご家族に大きな「お年玉」をお渡しできるよう、参加者、関係者の皆さまと立ち止まることなく、一緒に子どもたちの成長を見守り、歩み続けたいと存じます。

本年が皆さまにとりましてより良い年になりますようお祈り申し上げます。

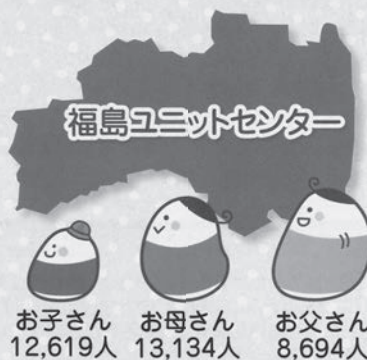
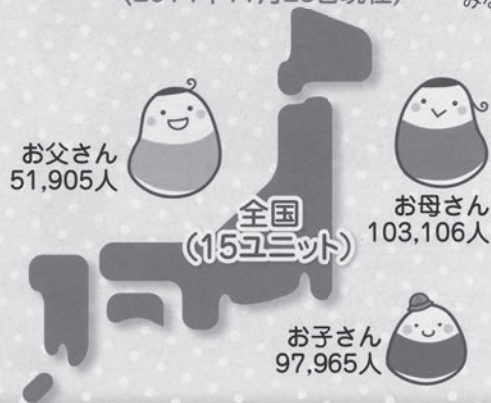
エコチル調査福島ユニットセンター長
小児科医

橋本 浩一



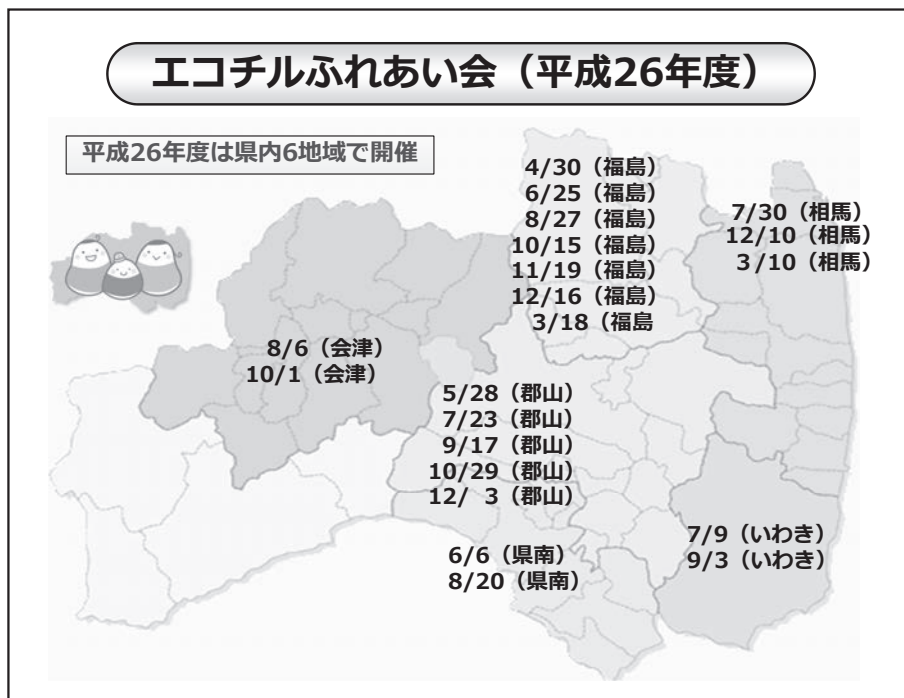
エコチル調査参加者数 (2014年11月28日現在)

エコチル調査に参加されているお母さんは、全国で103,106人、福島県の参加者数は全15ユニットの中で最多の13,134人です。みなさまのご協力で心から感謝申し上げます！



5. エコチルふれあい会の開催状況

○平成26年度の開催状況



平成26年度の開催状況

○各対象児のふれあい会状況

< 6 ヶ月児 >

- ① 6 ヶ月児対象のエコチルふれあい会 最も人気があり参加率が高い
- ② お母さんと子どもの笑顔に出会えることは、スタッフもげんきになります。



わらべ歌ベビーマッサージ



サンタ医師のミニ講座



茶話会&子育て相談会



3月18日のエコチルふれあい会でした。
みんなの笑顔がとっても素敵です。
そしてスタッフも元気をたくさんいただきました

<1.5歳児>



親子ふれあい遊び



絵本の読み聞かせ



親子体操(親子でダンス)



< 3 歳児 >

親子体操・(3B体操)



○エコチルふれあい会のアンケート結果

3 年間のアンケート回収数は、参加者860人中844人の98.1%である

アンケート結果(ふれあい会)

🍲 3年間のふれあい会参加者数と アンケート回収数(%)

対象児	参加者数	回収数	回収率(%)
6か月児	738	720	98.4
1.5才児	113	109	96.5
3才児	9	9	100
計	860	844	98.1

アンケート結果

Q 1 開催時期と曜日、日時について

・各地域により、平日の午前・午後2回または午後1回実施

① 適当：93%

② 適当でない：3%

③ どちらともいえない：3%

④ 無回答：1%

・選べるのが良かった

・1.5時間はちょうどよい

Q 2 ベビーマッサージについて

・ベビーマッサージは6ヵ月児を対象

- | | |
|-------------|----------------|
| ① 良かった：74% | ② まあまあ良かった：25% |
| ③ 良くなかった：0% | ④ 無回答：1% |

・一度参加したかった

・子どもが嬉しそうで自分も一緒に楽しめた

・歌を歌いながらは良かった

Q 3 医師によるミニレクチャーについて

- | | |
|-------------|----------------|
| ① 良かった：82% | ② まあまあ良かった：18% |
| ③ 良くなかった：0% | ④ 無回答：0% |

・普段じっくり聞けないことが聞けて良かった

・小児科の先生の話の直接聞けて良かった

・気軽に質問できるのは良かった

Q 4 茶話会・育児相談会について

- | | |
|-------------|----------------|
| ① 良かった：74% | ② まあまあ良かった：25% |
| ③ 良くなかった：0% | ④ 無回答：1% |

・月齢が近い子のママたちと話す機会がないので、今日は話せて良かった

・普段聞けないことをじっくり聞いてもらえて良かった

Q 5 エコチル調査に参加して

- ① 良かった：88% ② 良くなかった：1 %
③ 無回答：11%

感想

- ・ 郵送されてくるのが楽しみ
- ・ 見守られている感じで育児頑張れる
- ・ 調査票に記入することは育児や生活を見直す機会になるので良い
- ・ 子どもを見直す機会となり良かった
- ・ このようなイベントがあり楽しみである
- ・ 他の人と触れ合う機会があり良い
- ・ 小児科の医師や助産師がいてその場で相談できることが良い
- ・ 子どもが大きくなったときに調査結果が楽しみ

要望

- ・ 調査票が多く面倒、もう少し簡単にしたい
- ・ ふれあい会をもっと回数を増やして欲しい

6. エコチル調査協力医療機関

平成27年3月31日現在

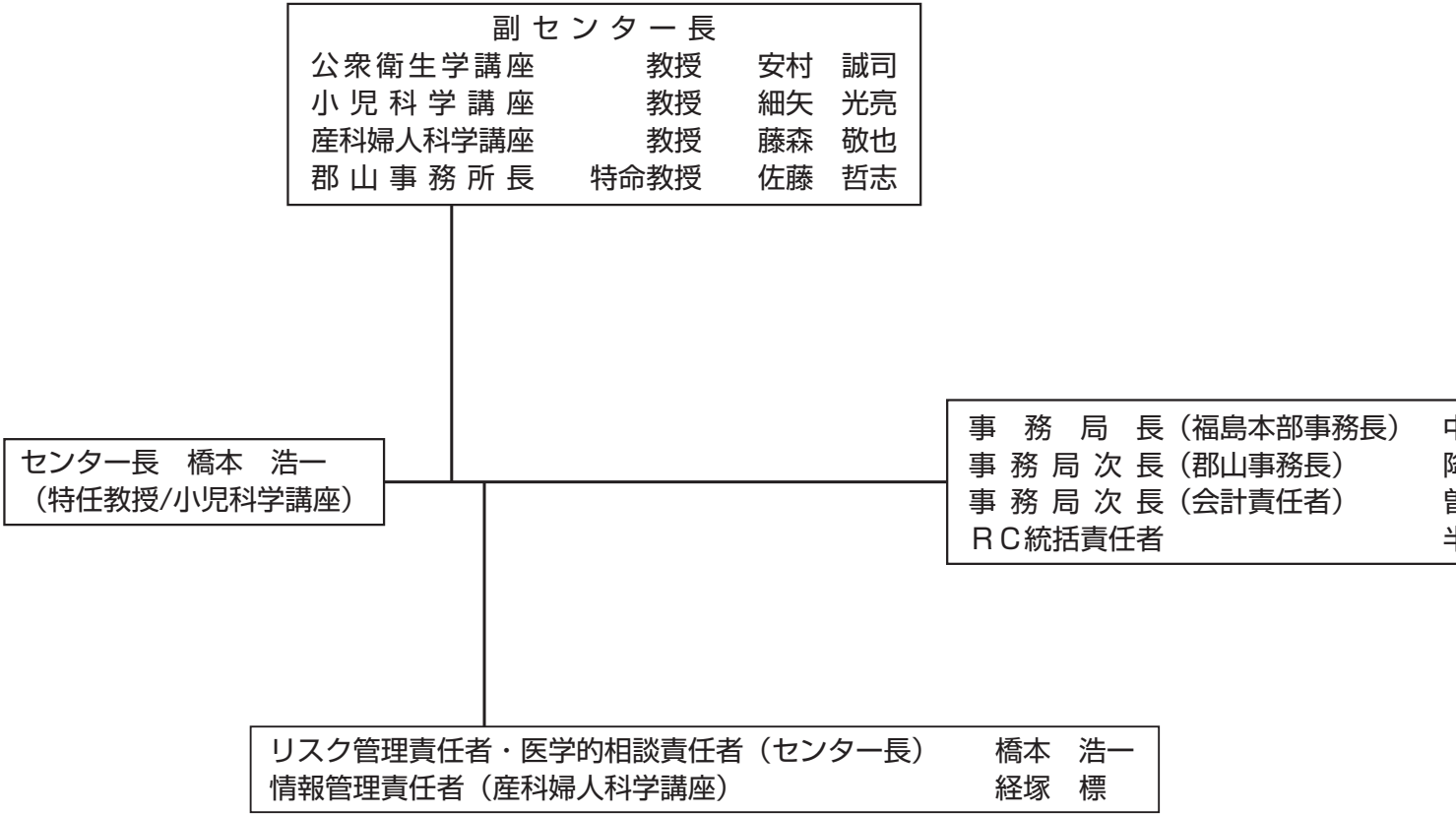
担当	SRL 医療機関 コード	エリア		協力医療機関名	郵便番号	住所	備考
福島本部 事務所	85	県北 (16)	1	福島赤十字病院	960-8117	福島市入江町11番31号	
	86		2	明治病院	960-8012	福島市北町2-40	
	87		3	いちかわクリニック	960-0112	福島市南矢野目字鼓田6-1	
	88		4	ささや産婦人科	960-0241	福島市笹谷字石田5-15	
	89		5	新妻産婦人科	960-8032	福島市陣場町9-18	
	90		6	本田クリニック産婦人科	960-1101	福島市大森字赤沢97-6	
	91		7	済生会福島総合病院	960-1101	福島市大森下原田25	
	92		8	大原総合病院	960-8041	福島市大町6-11	
	100		9	福島県立医科大学附属病院	960-1247	福島市光が丘1番地	
	341		10	大川レディースクリニック	960-8152	福島市鳥谷野字天神3-11	
	342		11	菅野産婦人科医院	960-8157	福島市蓬萊町2丁目1-11	
	361		12	セイントクリニック	960-0684	伊達市保原町上保原字大地内39-4	
郡山 事務所	402		13	二本松ウイメンズクリニック	964-0911	二本松市亀谷1-275	
	403		14	社会保険二本松病院 産婦人科	964-0315	二本松市成田町1-553	～平成25年3月31日終了
	404		15	渡辺医院	964-0876	二本松市正法寺町186-1	
	405		16	医療法人慈久会 谷病院 産婦人科	969-1131	本宮市本宮町字南町裡149	
	406	県中 (11)	17	たなかレディースクリニック	960-0209	郡山市御前南5丁目28番地	
	407		18	岡崎産婦人科	960-0107	郡山市安積2-335	
	408		19	寿泉堂総合病院	963-8002	郡山市駅前1-1-17	
	410		20	塚原産婦人科内科外科医院	963-8025	郡山市桑野2-34-12	
	411		21	慈繋会付属トータルヘルスクリニック	963-8841	郡山市山崎171	
	368		22	太田西ノ内病院	963-8558	郡山市西ノ内2丁目5番20号	
	412		23	星総合病院	963-8501	郡山市向河原町159-1	
	414		24	(財)脳神経疾患研究所付属総合南東北病院	963-8052	郡山市八山田7-115	
	415		25	古川産婦人科医院	963-8871	郡山市本町2-10-11	
	367		26	国立病院機構福島病院	962-8507	須賀川市芦田塚13番地	
	416		27	小森山産婦人科医院	962-0052	須賀川市大字西川字後田97-27	
	417	県南 (4)	28	片倉医院産科婦人科	961-0971	白河市字昭和町1	
	418		29	白河厚生総合病院	961-0005	白河市豊地上弥次郎2-1	
	419		30	塙厚生病院 産婦人科	963-5405	東白川郡塙町大字塙字大町1-5	
	450	会津 (4)	31	岩佐医院	319-3526	茨城県久慈郡大子町大子1828-7	福島県民のみリクルート
	420		32	舟田クリニック産科婦人科	965-0006	会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原34	
	369		33	竹田総合病院	965-8585	会津若松市山鹿町3番27号	
	421		34	会津中央病院	965-0011	会津若松市鶴賀町1-1	
	423		35	坂下厚生病院	969-6556	河沼郡会津坂下町逆水1856	
福島本部 事務所	424	相双 (9)	36	あらき産婦人科クリニック	976-0036	相馬市馬場野字山越55	
	93		37	南相馬市立総合病院	975-0033	南相馬市原町区高見町二丁目54-6	
	94		38	レディースクリニックはらまち	975-0014	南相馬市原町区西町2-71-1	
	95		39	西潤マタニティクリニック	975-0001	南相馬市原町区大町1-99	
	96		40	原町中央産婦人科	975-0006	南相馬市原町区橋本町1丁目3-2	産婦人科医院を閉院
	97		41	大町病院	975-0001	南相馬市原町区大町三丁目97	
	98		42	双葉厚生病院	960-0231	福島市飯坂町平野字三枚長1-1	
	99		43	今村クリニック	979-1513	双葉郡浪江町大字幾世橋字辻前47-1	震災で閉院の為、地域運営協議会委員辞退
	457		44	公立相馬総合病院	976-0011	福島県相馬市新沼字坪ヶ迫142	緊急搬送(児のみ)受け入れのみ
郡山 事務所	425	いわき (9)	45	村岡産婦人科医院	971-8151	いわき市小名浜岡小名4-7-1	
	426		46	渡辺産科婦人科	972-8318	いわき市常磐関船町塚ノ越62	
	427		47	かたよせクリニック産科・婦人科	972-8316	いわき市常磐西郷町字金山70	
	428		48	NOBUマタニティークリニック	970-8044	いわき市中央台飯野4-18-2	
	370		49	いわき市立総合磐城共立病院	973-8555	いわき市内郷御厩町久世原16	
	429		50	森田泌尿器科産婦人科医院	970-8026	いわき市平字作町2-8-1	
	430		51	つくだ町産婦人科医院	970-8026	いわき市平字佃町5-4	
	431		52	月川レディースクリニック	970-8026	いわき市平字童子町2-6	
	432		53	佐藤マタニティー・クリニック	979-0141	いわき市勿来町窪田町通1-124	

エコチル調査中断中

7. 平成26年度 福島ユニットセンターの組織図

(平成27年3月31日現在)

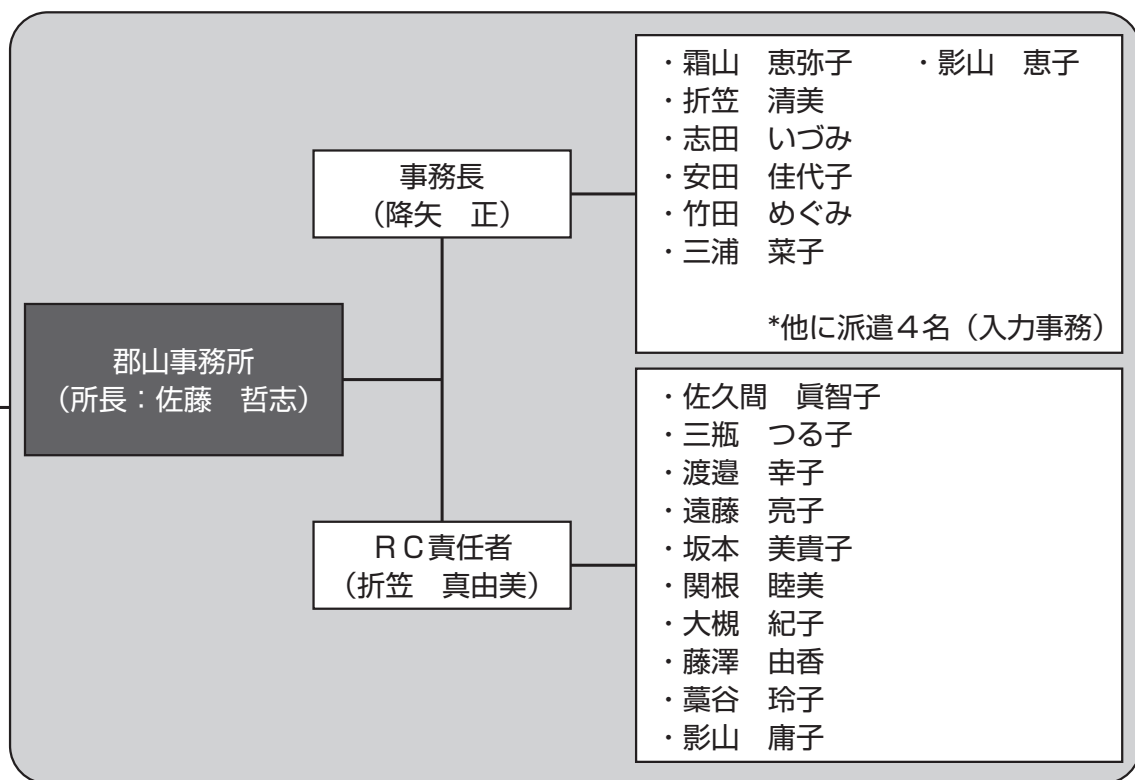
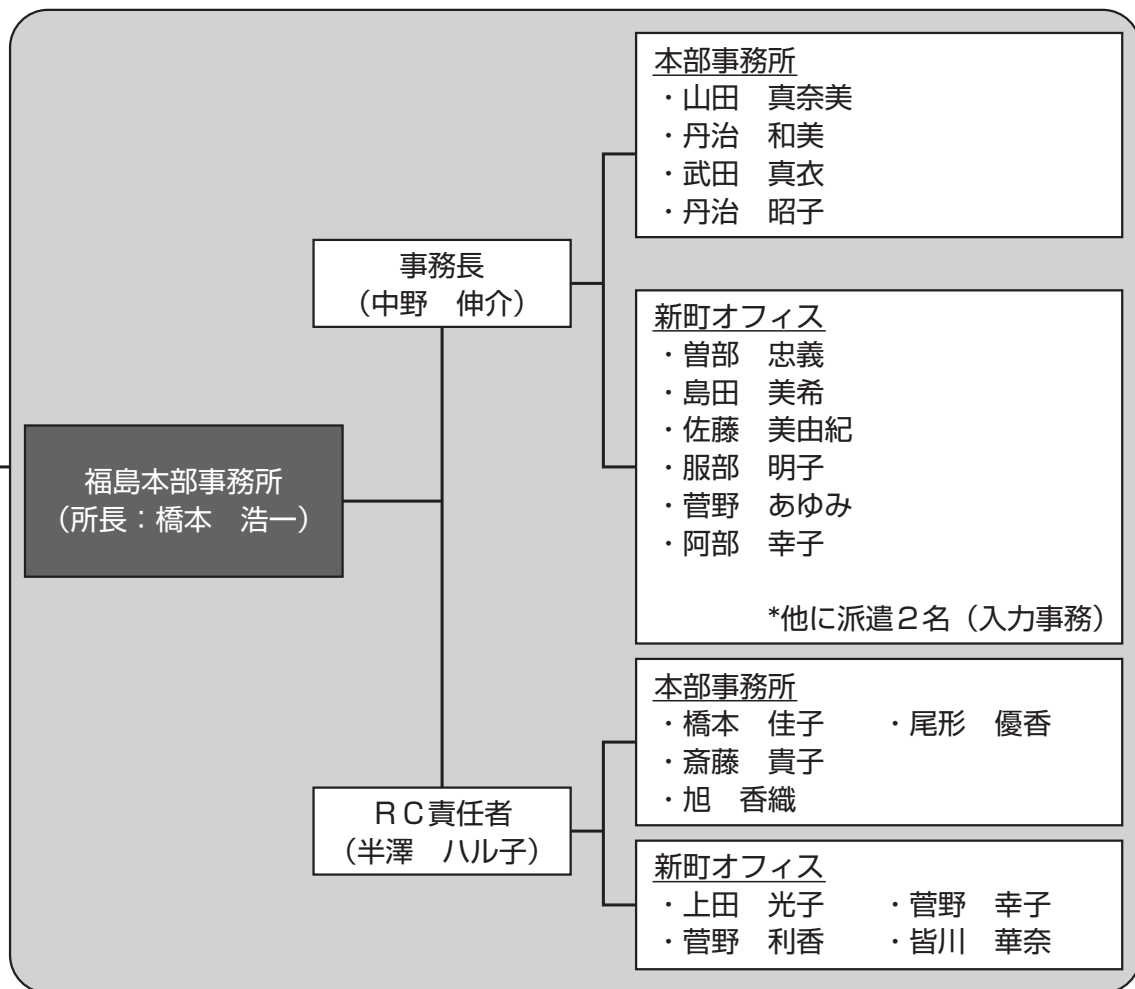
福島県立医科大学公衆衛生学講座
(大学事務局：企画財務課)



※事務局職員数 39名

- ・ 福島本部事務所 20名
- ・ 郡山事務所 19名

中野 伸介
降矢 正
曾部 忠義
半澤 ハル子



編集・発行

福島県立医科大学

エコチル調査 福島ユニットセンター 福島本部事務所
本部事務所

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL 024-547-1447 FAX 024-547-1448

*お問合せ窓口 TEL 024-547-1449

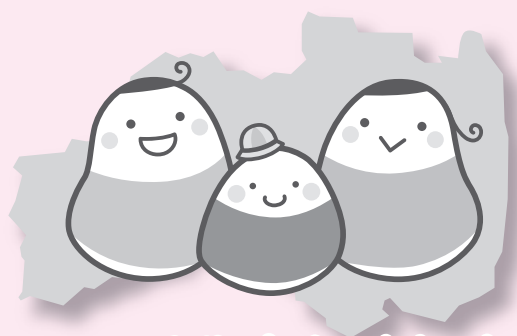
新町オフィス

〒960-8036 福島県福島市新町4番19号
山口ビル2階
TEL 024-523-5535 FAX 024-523-5537

エコチル調査 福島ユニットセンター 郡山事務所

〒963-8024 福島県郡山市朝日3丁目6番4号
レジデンス朝日第2ビル2階
TEL 024-983-4750 FAX 024-983-4751

*お問合せ窓口 TEL 024-983-4780



エコチル★ふくしま

Eco&Child Fukushima